

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 775 号 平成 26 年 7 月 25 日

品位以前

「議員は、道民の代表としての自覚及び責任感を持ち、議員の品位及び自律の精神を保持しなければならない」

これは、平成 21 年 7 月に制定された「北海道議会基本条例」第 9 条の 1 節です。

本条で示されている「議員の品位」というものが如何なるものか、受け止め方には個人差があるかも知れませんが、少なくとも、議員としての名誉を傷付けるような行為をしてはならないという事はいうまでもありません。

さて、つい先日（7 月 22 日）、小畑北海道議会議員（釧路市選出）が辞職しました。その原因は、ドイツへの海外視察の際、搭乗した日本航空の機内で、座席の背もたれを巡って他の乗客や客室乗務員とトラブルになり、暴言を吐く等し、日本航空から注意を受けたというものです。

小畑議員は、機内でウイスキーや焼酎を飲んでいたそうですが、「酔ってはいなかったと思うが、感情を抑えられなかった」と述べています。

今回の騒動に関して、「酒の上でのトラブルだから、議員辞職する程の事ではないのでは」と考える人もいるかも知れませんが、私は、小畑議員が辞職という選択をした事は賢明だったと思っています。

狭い飛行機の中で自分の座席を倒す際には、後ろのお客様に一声掛ける等の配慮をすべきことは当然で、そういう気遣いをせず、後ろのお客様から「座席を倒さないで欲しい」といわれて逆切れするようでは、議員としての品位を云々する以前の問題です。

品位というのは、その人の身だしなみや言葉遣い、更には周囲への気遣い等によって自ずから滲み出て来るものだと思います。

どんなに上等の衣服に身を包んでも立ち居振る舞いが“がさつ”では、品位は感じられないでしょうし、逆に、服装は粗末でも、深い教養に裏打ちされた語り口や表情の中にいいしれぬ魅力を感じる事も少なくありません。

品位というのは、その人の内面を鏡のように映し出しているといっても良いと思います。品位は飾るものではなく、滲み出るものだという事を、私は、反省を込めて実感しています。

「北海道議会基本条例」第 9 条が議員に対して求めている「品位」は何か、具体的には書かれていませんが、一言でいえば、道民の代表である議員として後ろ指を

指される様な振る舞いは誠に慎むように、という事だと思います。その意味で、今回の小畑議員の振る舞いは、明らかに本条に抵触しているといわざるを得ません。

私は小畑議員が議員辞職の意思を表明した事に驚きはしませんが、私が小畑議員の議員辞職について止む無しと考える理由は別にあります。

議会議員は、普通のサラリーマンのように勤務時間が決められている訳ではありません。つまり、サラリーマンなら、勤務時間が終了すれば後はプライベートな時間で自由という事になりますが、議員はそういう訳にはいかないという事です。

議員は、365日、24時間、議員である事から逃れられません。世の中何が起こるか分かりません。そうした中、危機管理という側面からも、議員という職責にある者は、何時如何なる時でも、的確な判断と行動が求められています。勿論、これは議員だけではなく知事も全く同様です。「それでは、気の休まる時がないではないか」と思う人もいるでしょうが、それが、公職にあるものの責任というものです。

今回の、小畑議員の言動は、酔っていたせいかどうかは分かりませんが、著しく平常心を欠いたものであり、品位の問題以前に、議員ご自身の危機管理能力が問われる事態を招いたといわねばなりません。

私は、個人的には良く存じ上げている方であるだけに、今回の問題は非常に残念に思っています。(塾頭：吉田 洋一)